

アトリエ 琉游舎 だより 34号

2018年8月29日発行

アトリエ琉游舎 ryuyusha.com/
 琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>

彼岸会法要

9月22日(土)10時から

○彼岸会について

彼岸は悟りの世界。煩惱に満ちたこちらの岸 (= 此岸) に対して極楽浄土の向こうの岸 (= 彼岸) を表します。私たちは六波羅蜜の教えを実践する事により、彼岸へ渡ることができるとされています。しかし凡人である私たちは、六波羅蜜の教えを毎日実行することは難しいことなので、せめて春と秋の年2回はその教えを実行する。これが現在のお彼岸法要の意味となっています。

ちなみに六波羅蜜とは彼岸へ到達 (パラミータ) するための6つの実践徳目です。

- 1 布施**：施しをすること。 **2 持戒**：戒律を守り反省すること。 **3 忍辱**：不平不満を言わず耐え忍ぶこと。
4 精進：一所懸命努力すること。 **5 禅定**：心を静かに保つこと。 **6 智慧**：真実を見抜く智慧をもつこと。

- ★琉游舎はみんなに分かる法要を目指しています。小一時間ほど日常の空間を離れてみませんか？
- ★琉游舎の法要は事前に式次第をお配りして、式の進行と内容、所作の意味などの説明をしています。また終わった後に分かりやすく当日の法要の意義・内容を説明し、質問もお受けして答えるように心がけています。もちろん宗教宗派を問いません。すべての皆さんのための開かれた「場」です。

○琉游舎の活動は営利事業ではありませんので、お布施は一切お構いなきようよろしくお願い申し上げます。皆様のお越しをお待ちしています。

9月・10月のスケジュール

			木	金	土	日
			30 映画会 13:30	31	9月1日	2 写経会 13時半
3	4 写経会 13時半	5	6 映画会 13:30	7	8 詩話会 13時半から	9
10	11 読書会 13:30	12	13 映画会 13:30	14	15	16
17	18	19 ..	20 映画会 13:30	21	22 彼岸会法要 10時半から	23
24	25 読書会 13:30 居酒屋の会 16~	26	27 映画会 13:30	28	29	30

映画会
毎週木曜日
13時半から

詩話会
9月8日(土)
13時半から

写経会
9月2日(日)
9月4日(火)
13時半から

読書会
9月11日(火)
9月25日(火)
13時半から

琉游舎だよりの裏面に「狂言綺語」と題して書き始めて今回で26回目となります。彼岸会法要にあたりその意味を自分なりに理解することから始まり、コリーナの自然と日常生活の中で、分かったことは分かったままに、分からないことは分からないままに書きとどめ、宗教者として、ありのままのお釈迦様の教えをありのままに観ることにつとめ、その観たままに日々を過ごし、そしてそれが安らぎのところ（彼岸）へとたどり着く行いであると信じた実践の毎日を書き綴ってきました。正統と言われるような仏教の理論と実践の教えを受けず、ただ独学独習で1年間やって来ましたが、幸いなことにコリーナの自然と琉游舎での皆さんとの交流が、私にとっては何よりの学びの道となりました。自らの行いの結果はそれが悪い結果だろうと良い結果だろうと、自らが得るものである、というお釈迦様の教えに忠実に、今ここにある私もこの一年間の行いの自業自得の結果なのです。

自業自得という現代ではあまり良い意味に使われない言葉だと思います。”朝起きると頭が割れるように痛かった。それはあなたの昨夜の飲み過ぎという行為（業）によって自らが得た結果なのです。だから悪いのはあなたなのです。”とこのような意味で使われることが多いと思います。自分でした悪い行いが報いとして自分にかかってくるというニュアンスが強くなり、そら見たことか、だから正しい行いをしましょうという懲罰的・道徳的な臭いが紛々としています。しかしお釈迦様の言われる自業自得は決して悪い意味でも、教条的でもありません。自分の行為の結果は善も悪も自分で享受するという意味です。だから”寝る間も惜しんで勉強をしてついに誰もが無理だと思われた難関校に合格した！”という結果も自業自得なのです。お釈迦様はいつもシンプルなことしか言っていない。自分に関わるすべての結果は全部自分がもたらしたものであるから、人のせいにも批判したりも出来ないのです。ましてやご先祖様がひどい悪業を行ったから、今その報いを受けてわたし達はつらい目に遭っている。などというたわ言はお釈迦様の言葉では決してありません。「あなたの先祖の悪業が今のあなたの不幸の原因です」というようなセールストークを聞く機会があるかもしれませんが、自業自得という言葉思い出して下さい。そしたら無駄な買い物やだまされたと後悔しなくてすむはずですよ。

「自ら悪をなすならば、自ら汚れ、自ら悪をなさないならば、自ら浄まる。浄いのも浄くないのも、各自のことがらである。人は他人を浄めることはできない」注1「自業自得」について端的に分かりやすく語ったお釈迦様の言葉です。「悪」をなせば「汚れ」「悪をなさない」ならば「浄まる」という単純な法則だけなのです。そして他人から「汚れ」や「浄め」を与えられることも決してないということです。完全に自己責任の原則です。これは大変厳しい言葉だと思います。人に原因を転嫁したり、偶然の結果だとあきらめたり、今度はきつとうまくいくはずだと考えたりすることを許してはくれません。同じ行いを繰り返す限り、結果は常に同じです。それは前号でお話した「縁起」の教えにも明らかです。お釈迦様は自ら浄まるための道は自分自身にしかないと示されているのです。人を責めるのではなく、自身の中に原因を探して、改めていくことが唯一の解決の道だと言われているのです。

自己責任と言われるとやっぱりお釈迦様の教えは厳しすぎて、ついていけないと考えるのも無理はありません。人は今の苦境の原因が自分の行いの結果だとはなかなか認め難いものです。その苦境を他人のせいにしても苦しみは除かれないでしょう。逆に他人を責めるといって苦しみが増え、他人をもその苦しみに巻き込んでいくばかりなのではないでしょうか。自分だけですむはずの苦しみを他人を巻き込むことで拡散させ、仕舞いには大きな苦しみとなってブーメランのように自分に戻ってくるのです。ある1人の苦境が家族を巻き込み、地域社会から国家の苦境まで拡散し、ついには地球全体を苦境に陥れることもあるかもしれません。戦争が起こるメカニズムをこのように考えることも、あながち妄想とは言えないと私は思っています。苦境の拡散はその原因を曖昧にし、拡散の過程で対立を引き起こしていくものです。だから自業自得という言葉にあらためて戻るべきなのです。自分の行為（業）の結果は自分が得るといって原則をしっかりと自覚してさえいれば、自分の苦境も悦びもしっかり自分が引き受けることができ、逆に他人の苦境も悦びも理解し共有できるはず。そうすれば悦びはお互いが享受し、苦境には救いの手をさしのべ合うようになるでしょう。このように考えると、自業自得と観ることは、自分がもし今苦境にあるとしたらそこから逃れる唯一の方法であると、私は信じています。そしてそこはもう安らぎのところでもあるのです。

この1年間の琉游舎の生活で「狂言綺語」を1人でも読んでいただけの方がいるという実感が、私にありのままに観て、受け入れ、行い、書きとどめるという業を続けさせて来たと思っています。1年後に私がどのような自業自得の中にいるか、自分でも見当がつかませんが、**琉游舎：戸井 出琉・恭子** 語り・飲み・考え・実践するという日常はこのままに **お問い合わせ先：0287-53-7848 08033508152** 2年目も筆が続く限り日々の業をつんでいきます。 **矢板市大槻2319-17コリーナ矢板C-850**

それではまた次号でお会いしましょう。（出琉）

Mail:toi101izuru@outlook.jp

アトリエ琉游舎 ryuyusha.com/